

メールに添付されているファイルに注意

現状

見知らぬ相手から添付ファイル付きのメールを受け取ることがあります。その中には、コンピュータ・ウイルスが仕込まれていることがあり、知らずに開いてしまうとアドレス帳からメールアドレスや氏名などの個人情報を盗み出されたり、コンピュータのシステムファイルを改ざんしてデータを壊されたりすることがあります。

IPA(情報処理推進機構)が昨年未公表した「2011 年度情報セキュリティ事象被害状況調査」によれば、ウイルス遭遇率が 68.4% (前回比+19.3 ポイント)、感染率は 16.9% (前回比+3.4 ポイント) と引き続き高水準で推移していることが示されています。

(出典 <https://www.ipa.go.jp/security/fy23/reports/isec-survey/index.html>)

問題点

利用者が自分とは関係ないメールに添付されたファイルを開封してしまうことが原因で、コンピュータ・ウイルスに感染してしまうためです。気を付けていても、ファイルのアイコンや拡張子を偽装しているものがあり、騙されて開封してしまうことも少なくありません。

対策

自分に関係ないメールの添付ファイルは開かず、すぐに削除することが必要です。添付ファイルの代わりにメール本文に URL が書かれている場合も同様です。被害に遭わないためには、日頃から次のような点に注意することが重要です。

- 見知らぬ相手先から届いた添付ファイル付きのメールは厳重注意する
- 添付ファイルの見た目に惑わされない(アイコンや拡張子の偽装に注意)
- 知り合いから届いたどことなく変な添付ファイル付きのメールは疑ってかかる。
- メール本文で済む事をテキスト形式等のファイルで添付しない
- 各メーカー特有の添付ファイルの取り扱いに注意する

詳しくは、IPA(情報処理推進機構)の「メールの添付ファイルの取り扱い 5 つの心得」を参照してください。

<http://www.ipa.go.jp/security/antivirus/attach5.html>

また、ウイルス対策ソフトを常に最新にしておくことも重要です。添付ファイルを開く前にウイルス対策ソフトで検査するなどの習慣を身につけると良いでしょう。

アイコンや拡張子を偽装しているコンピュータ・ウイルスを見つけるためには、ファイルの拡張子を確認することも重要です。フォルダやPDFのアイコンなのに、拡張子が .EXE（実行形式）になっている場合など、コンピュータ・ウイルスである可能性が高いことがわかっています。

ファイルの拡張子は、フォルダオプションで「登録されている拡張子は表示しない」のチェックをはずすことで見ることができます。（図1の赤枠で示すチェック）

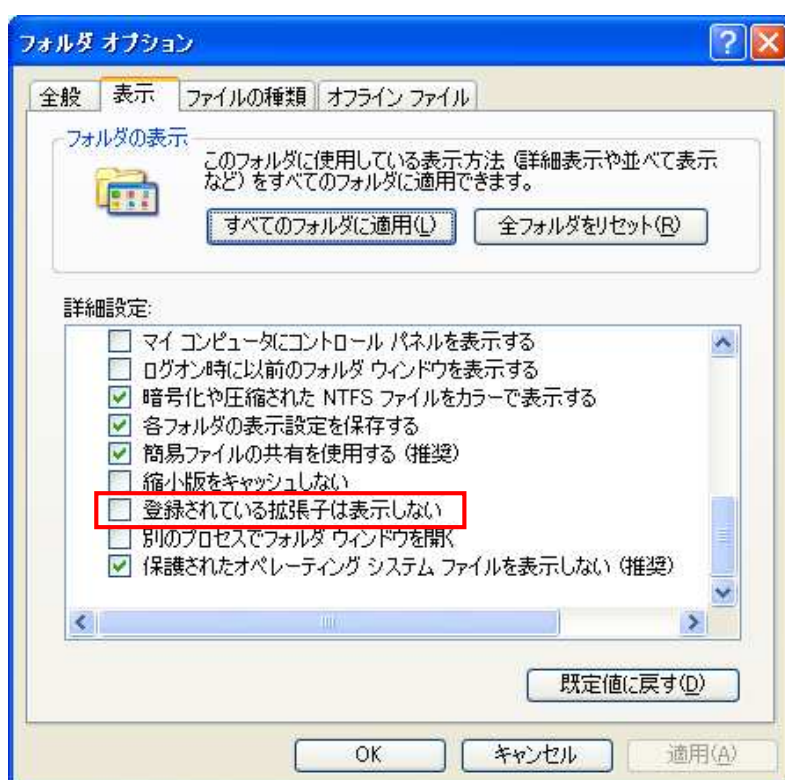


図 1

Windows によって設定の方法が異なりますので、マイクロソフトの紹介ページを参考にしてください。

初心者向け変更方法 Windows XP, Vista, 7: <http://support.microsoft.com/kb/978449/ja>

Windows XP の切り替え方法: <http://support.microsoft.com/kb/882195/ja>

Windows7 の切り替え方法:

<http://www.microsoft.com/ja-jp/atlife/tips/archive/windows/tips/252.aspx>

以上